

5月を迎えまして、すっかり春を感じる季節となりました。

江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町の皆さま、またホームページをご覧の皆さま、いかがお過ごしのことでしょうか。

先月の4月6日から15日までの10日間、春の全国交通安全運動が実施され、幸いなことに江差警察署管内で死亡交通事故はありませんでした。

交通事故防止は、警察のひとり仕事で果たせるものではございません。

それぞれの町にお住いの方々や各自治体、関係機関や企業など団体の総意として、命を失う交通事故は起こさないという強い思いのもと、街頭啓発など様々な活動をなされた賜でございます。

ここに深く感謝を申し上げます。

ところで、これから初夏の季節を迎えます。

穏やかな気候と自然豊かな景観を誇る南檜山地方は、道路を行き交うドライバーにとって、爽やかな潮風を心地よく体感できるとよく知られ、気分が高揚することもあり、ついスピードを出し過ぎるようです。

交通事故の原因は、安全の確認不足が多いところ、確認できない状況がスピードオーバーによって引き起こされる因果関係も考えられます。

交通事故を起こさなければケガをすることはなく、当然亡くなることもありませんから、車両の運転をなさる方はスピードダウンと交差点での安全確認の励行をお願いいたします。

次に、春から初夏の楽しみと言えば、山の豊富な天然ミネラルが宿るナチュラルな無農薬野菜の【山菜採り】かと思われます。

味わい深さにファンも多く、恒例行事として楽しむ方も多いでしょう。

採取場所が山中のため、相当な距離を歩きますし、山坂の上り下りもあることから、体力の向上や筋力維持、心肺機能も高まるなど、山歩きを運動代わりとして健康療法とされる方もおります。

さてこの山菜採りで、皆さまに知って欲しい2つのことがあります。

1つはヒグマが出没した時のこと。

そしてもう1つが自分の居場所がわからなくなり、要は遭難しそうなった時のことです。

これは皆さまの命を守るため、そして皆さまを待っておられるご家族の元に無事帰るため、必ず守って欲しいのでどうかお聞き届け下さい。

【ヒグマへの注意】

1 出没情報を知ろう

テレビや新聞、町役場のホームページにヒグマ出没情報があります。
あらかじめヒグマの出没場所を避けることができます。

2 単独行動はやめよう

野山にひとりで入らない。複数で行動する。

3 音を鳴らそう

クマの鈴を鳴らす。ラジオ番組を流す。ご一緒の方とお話をする。
クマに人間がいることを音で気が付けさせましょう。

4 痕跡を見たら帰ろう

ヒグマのフンや足跡、食べた跡を見つけたらすぐ引き返しましょう。

5 さわがず、あわてず、落ち着こう

ヒグマと会っても『さわがない あわてない にげない』こと。

6 置いた荷物は放っておこう

もしヒグマに会ったら、置いた荷物はそのまま放っておく。
落ち着いて、ゆっくり、静かにその場を立ち去りましょう。

7 熊撃退スプレーは持ち歩こう

もし、ヒグマが襲ってきたら、迷わず撃退スプレーを噴射です。

【山林遭難の注意】

1 ひとりで入山しない

ヒグマのこともあります。一人では山に行かない。
ケガをした場合、ご一緒の方が救助を求めることができます。

2 家族に行き先を伝える

行き先がわかると早く捜索して、見つけることができます。

3 山奥に無理に立ち入らない

知っている場所、慣れていることなど油断は禁物。
気候、体調、体力は変わります。

4 目立つ服装にする

上空から捜索するヘリから、白色や赤色の服装がよく見えます。
目立つ服装で、早く見つかって助けていただくということです。

5 笛(ホイッスル)や携帯電話を所持する

ヒグマのこともあります。笛は必須で常備。
携帯電話もGPSで捜索者が場所を割り出せる場合があります。

以上となりますが、今月は春から初夏の行楽期にかけて、特に皆さまに注意をなさっていただきたいことについてご紹介をさせていただきました。

皆さまにとっては、長年なじみのある春山と思われそうですが、ヒグマの注意や熱心に山菜を収穫するあまり、ご自分の居場所に迷い遭難となる場合もあります。

皆さまには、かけがいのないご家族の方やご友人、知人がおられると思いますので、とにかく命あって帰るべき場所に戻ることが大切です。

不幸な事故にあわないためにも、ご紹介しましたポイントについて、よくご覧いただきましたうえ、ご家族やご友人との話題として取り上げていただき、是非関心をもって注意を払っていただけますと幸いです。

むすびに、署員一同、管内にお住まいの皆さまに安全で安心な暮らしやすい地区を目指して、引き続き奮闘努力いたしますので、みなさまの変わらぬご協力を賜れますよう、かさねてお願いを申し上げます。

令和 7 年 5 月

江差警察署長 大橋 俊夫